

豚4農場ハサップ認証

県内初 食の安全性向上へ

J Aおきなわ(大城勉理
事長) グループの沖縄県食



肉センター(南城市、宮城直社長)と農業生産法人くにがみ畜産(国頭村、新里朝春代表)の豚を飼育する4農場はこのほど、農場段階から食品の安全性を客観的な基準で示す「農場HACCP(ハサップ)認証」を取得した。中央畜産会が3月30日付で認証した。農場ハサップ認証の取得は県内で初めて。

認証されたのは、県食肉センターの生産部数久田農場(名護市)とくにがみ畜産の繁殖農場、肥育第1農場、肥育第2農場の4農場。政府は2020年の東京五輪に向けて、安全性に

関する国際規格や日本版の認証を取った農場の作物や生産管理が確認された作物

の取引を優先的に推奨している。

那覇市のJA会館で16日に認証取得を報告した宮城社長は「職員のモチベーションが上がり、生産性の向

上にもつながる。継続して安心安全を担保できる農場を目指したい」と話した。

県食肉センター、くにがみ畜産は、ハサップを推進するため月1度のチーム会議を重ね、15年6月30日に「推進農場」の指定を受けた。

「認証農場」取得後は維

持審査、3年間に1回の更新審査を受け、継続的に基準に適合しているか審査される。JAは20年度までに、あぐー豚を繁殖・肥育する4農場で、認証農場の取得を目指している。

全国のハサップ認証農場は、3月30日時点で計16農場(乳用牛・17農場、肉用牛・28農場、豚・71農場、採卵鶏・42農場、肉用鶏・3農場)となる。

J Aは豚のと畜場で、今年7月にもハサップを取得する見込み。JAの大城理事長は「衛生管理を向上させ、安心安全な畜産物を届けたい」と述べた。

ハサップ認証の前段となる「推進農場」には、県内ではほかに採卵鶏の農事組合法人沖縄市養鶏団地組合(沖縄市)、豚の農業生産法人福まる農場新垣豚舎(糸満市)、肉用牛のもとぶ牧場(本部町)が指定されている。推進農場は指定から2年間有効で、「認証農場」の取得に向けて衛生管理体制の構築を進める。

農場ハサップ認証農場を取得したJAおきなわグループの沖縄県食肉セ

ンター、くにがみ畜産の関係者ら=

16日、那覇市寄川のJA会館

県内初「ハサップ農場」

J A おきなわ 4 養豚場が認証取得



J A おきなわグループの県る他の4農場でも認証取得を食肉センター（南城市、宮城）を目指す。

直社長（）と農業生産法人ぐにがみ畜産（国頭村、新里朝春）代表）は16日、運営する養豚

の4農場で、食品の安全・衛生管理に関する国際認証「HACCP（ハサップ）」の管理水準を満たす「HACCP農場」に、県内で初めて認定されたと発表した。2020年度までに、アグーを生産す

認定されたのは、年間約4千頭の豚が出荷される県食肉センターの数久田農場（名護市）、年約1万6千頭の出荷が見込まれるぐにがみ畜産の繁殖農場、現在6千頭が育てられている肥育第一、第二農場（国頭村）。

4農場を含め全国で認定を受けているのは185農場あるという。

宮城社長は「県産豚肉のブランド力の向上や海外輸出にも有利になる」と期待。J A おきなわの大城勉理事長は「今後も取り組みを続け、県民に安心・安全な豚肉を届けたい」と話した。

県内初の「HACCP農場」認定をアピールするJ A おきなわの大城理事長（前列左から2人目）と県食肉センター、ぐにがみ畜産の関係者ら（16日、那覇市・JA会館）